

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成24年5月23日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4676600218
法人名	有限会社 やわら
事業所名	グループホーム やわら
所在地	鹿児島県曾於市末吉町二之方5232-8 (電話) 0986-76-3727
自己評価作成日	平成24年3月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成24年3月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一日の中で入居様が楽しみとされている「食事」に力をいれています。入居様の好みを踏まえながら、喜ばれる献立をたてている。時には手作りお菓子(ふくれ菓子やおはぎ等)の提供を行なっています。

御家族様が安心していただけるよう情報提供を行うように取り組んでいます。心身の状態が重度になっても、住み慣れたところで、最期まで過ごすことができるよう協力医療機関、訪問看護ステーションとの連携強化に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

静かな田園地帯に平成17年に設立されたホームである。和やかにお茶を飲んだり、自家菜園の野菜を下処理できる社長手作りのあずまやが印象的である。家庭的な雰囲気がたどよい、利用者や職員の笑い声が聞こえる。職員は地域の利用者ニーズに真摯に向き合う事業所の特色が自信やモチベーションにつながり、職員自身も「自分か利用したい施設」に向け努力がみられる事業所である。

○ 残存能力の向上

ホームは介護者主体ではなく、利用者が家庭的にいかにか気持ちよく過ごせるかを考えられ、オムツをなるべく使わない方針を掲げ、利用者の残存能力の向上を図るべく支援が行われている。

○ 職員の丁寧な声掛けと対応

誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をするよう、常に職員同士で注意を払い、気がついた時にはすぐに身振りでも知らせるようにするなど、一人ひとりの人格を尊重したケアを心がけケアの基本としている。

○ 目標を設定し向上心のある職員を育成

計画的な職員研修体制が整い、資格取得にも積極的である。また、記録を工夫し気づきや早期発見、方針の共有など質の高いケアにつなげている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	ホーム入口へ理念を掲げている。特に、家族や友人地域の皆様との交流が気軽にできるよう心がけている。	理念には「地域の皆様と気軽に交流できる」などの言葉を含み、地域に根ざしたサービスを意識できる内容が盛り込まれている。玄関等に理念を掲示すると共に、毎日の朝礼での唱和や申し送り時の話し合い、新人研修等を通して、職員は理念の意義を十分に意識し、ケアの実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人員として日常的に交流している	近隣へ散歩へでかけ、挨拶等を交わしている。5月には、ホームにて作る「ちまき」を近隣の方々へ入居者様と一緒におすそわけにでかけている。	地域の清掃活動や催し物へ参加したり、散歩の際に地域の方々や挨拶や会話を楽しんだり近隣の方からの野菜の差し入れがあったり日常的に交流している。また、学生ボランティアの受け入れも行っており、利用者はこれらの機会を楽しみにしている。	
3	0	○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	地域の方々の相談の際は、できるだけわかりやすく説明するように努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見を前向きに検討し、後日勉強会等で話し合い改善に向け努力している。	会議は市役所職員、地域代表、家族代表などの参加があり、2カ月に1回の開催である。利用者及び家族からの要望を行政に伝える場になったり、グループホームの特徴を理解していただく場となったり、ホームの業務改善やサービスの質の向上についてともに考える場となっている。ただ、外部評価の報告や対応に関する取り組みについての話し合いの確認はできなかった。	今後は目標達成計画を作成し、運営推進会議で話しあわれることを期待したい。次回の運営推進会議では、今回の外部評価結果について話し合う意向である。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	日頃より、サービス運営等に疑問が生じた際は、市の担当者へ電話にて相談若しくは出向く等して相談を行なっている。	市の担当課や包括支援センターの窓口にホームのパンフレットを置かせて頂き、諸手続をする際に訪問、または電話で相談や疑問点の質問を行い関係作りに努めている。現場や利用者の課題解決に向け、情報提供と共有を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	正門、玄関、日中施錠は行っていない。夜間は、安全対策の為昨年まで施錠を行っていたが、消防の要望により現在施錠を行っていない。居室への施錠は無し。	職員は常に利用者の状態把握に努め、外出時にはさりげなく付き添い、見守りを行っている。また、マニュアルを作成して研修を行い、玄関をはじめ各居室に鍵をかけない自由な暮らしの実現を支援している。更に、安全のために必要な拘束については、家族を交えて十分な話し合いが行われ柔軟に対応している。	
7	0	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待をテーマとした研修は行っていない。今後、年間研修計画をたて、学ぶ機会をつくりたい。		
8	0	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	昨年、「高齢者の権利擁護」についての外部研修に職員参加。全体会議にて報告あり、制度等について考える機会を設けた。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9	0	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の際は、重要事項説明書、介護利用契約書にて説明を行い理解いただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	御意見箱を設置しているが、活用がなされていない。家族会や面会時等に意見、要望を聞くようにしている。入居者様の意見、要望に対し、小さなつづやきも聞きのがさないように努めている。	重要事項説明書に相談窓口を記載するとともに、家族会も定期的に開くなど、家族が意見や要望を話しやすいような工夫と配慮が感じられる。職員が把握できた苦情等は、苦情報告書や業務日誌等を通じて共有を図り、必要な場合は勉強会やカンファレンスなどで話し合い、本人や家族に報告を行うなど、速やかに解決するよう努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月第4月曜日、職員勉強会にて意見交換の場を設けている。	管理者は朝の申し送りや職員会議で、勤務態勢をはじめとする業務に関する話し合いを行うなど、日頃から職員が意見を出しやすい雰囲気作りに努めている。必要に応じて個別面談の場を設けて、相談事や意見を聞き取り、業務改善やサービスの質向上につなげている。	
12	0	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	働きやすい環境作りに施行錯誤であるが、できるだけ、やりがい、向上心を持てる職場になるよう心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	0	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	外部研修等は情報提供を行い、参加できるよう勤務調整を行うなど機会の確保に努めている。		
14	0	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	市内のグループホーム連絡協議会に参加し、他のグループホームとの交流や情報交換を行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15	0	○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しい環境になることで不安を抱え入居される方が多い。早く安心した生活ができるように、言葉かけや表情、表現などの工夫を行いながらコミュニケーションをはかるようにしている。		
16	0	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホーム見学の際、御家族の困り事、不安、要望をお聞きするようにしている。		
17	0	○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「その時」のニーズに合わせた、他サービスの紹介を行うように努めている。		
18	0	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	喜怒哀楽を共にしながら、共同生活を行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	0	○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と過ごす時間が重要である事を面会時等に伝え、絆がとぎれないように支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族や友人の面会、電話の支援ができるように努めている。	面会記録を活用し、利用者を支えてくれていた人間関係を把握するとともに、関係を継続できるよう手紙、面会、電話の支援や、墓参りやなじみの店への買い物などの支援を行っている。	
21	0	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の状態に合せ、テーブルの配置を決めている。トラブルに発展しそうな場合はすばやく対応するように心がけている。		
22	0	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も個別相談があれば随時対応している。入院時はお見舞いでかけ病状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で、言葉や仕草等から希望、意向の把握に努めている。意思疎通困難な場合でも、ちょっとした表現を聞き取り本人本位の暮らしができるように努めている。	利用開始前に本人や家族、関係者からどのように暮らしたいかを聞き、アセスメントシートなどに記載し、介護計画に活かしている。入居後は日々のかかわりの中で本人の意向をくみ取り、カンファレンスなどの場や業務日誌で職員間の共有を図っている。	
24	0	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、他サービス関係者から暮らしぶり等を聞き情報を得ている。		
25	0	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状況に合わせた生活リズムを把握し援助している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人は日頃の関わりの中から思いや意見をきくようにしている。重度の方に関しては、家族、職員の意見を充分検討を行い計画を作成している。	ケアマネージャーを中心とした担当者会議で十分に話し合いながら計画を作成している。また、ミーティングで介護支援専門員と職員が意見を交換し、それらの内容を介護計画に反映させると共に、職員は利用者ごとの個人ファイルの記録を活用して日常のケアを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	0	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ごとに、毎日の食事量、水分量、排泄状況、心身状況等を記録している。		
28	0	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力医療機関との連携により、病状悪化がみられても、今までの生活が安心して続けられるように支援している。		
29	0	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりが地域で安心して楽しく暮らしていけるように、地域の催し等参加する機会が少ない為、再度地域資源の把握に努めていきたい。御家族の協力は随時いただいている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力病院の他、専門病院での医療を受けられるよう支援している。	かかりつけ医は入居前からかかっている医療機関に本人や家族の意向を大切に決めていく。訪問治療受診時も適切な治療が受けられるように口頭その他、診療情報提供書や実施記録等で情報提供に努め、医療機関との良好な関係づくりに取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	0	○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	末吉訪問看護ステーションの定期訪問時や、状態変化時に相談を行なっている。		
32	0	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、状態確認の為病院へ出向いている。早期退院にむけ、受け入れ体制の情報提供を行う等の支援を行なっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を踏まえ医師、訪看と職員が連携をとり、安心して最期が迎えられるように取り組んでいる。	重度化や看取りに対する対応指針を定め、家族に説明し同意をもらっている。また、その後も本人や家族、かかりつけ医と相談し職員の共有も図っている。過去に看取りの実績もあり、病院と24時間体制で連携がとられ利用者・家族の安心感につながっている。	
34	0	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルは、職員が目を通せる場所へ設置している。急変時、事故の際は訪問看護ステーションとの連携を行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>H23. 3スプリンクラー、自動火災通報装置の設置。取り扱いについて、写真を使い勉強会にて説明行う。</p>	<p>非常災害時の備品の管理は十分になされ、マニュアルを作成し、それに基づいて研修も行われおり、体制が整っている。ただ、前年度はスプリンクラーの工事等のため避難訓練が行われていなかった。</p>	<p>最低でも年2回は避難訓練が行われることを期待したい。事業所の意向では早い時期に訓練を実施する予定である。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄の失敗に特に配慮している。物忘れをして落ち込まれる際、安心できるよう、否定的な声かけをしないように努めている。	ホームの方針が作成され、利用者へ言葉遣いや言葉掛けには十分な配慮が感じられ、自己決定しやすいような工夫がなされている。また、記録等は事務室の鍵のかかる棚に保管し外来者の目につかないように配慮している。	
37	0	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表現できる方、表現する事が困難な方一人ひとりが伝えようとしている事をくみ取るように努めている。		
38	0	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人個人の生活のリズム、その日その日の健康状態を把握し、その人らしい生活が支援できるように努めている。		
39	0	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	散髪、毛染め、パーマ等、本人の希望にそえるように、近隣の床屋さんへお伝えしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえを職員と一緒にやることにより、どのような料理になるのだろう？と想像したり、こんな料理にしてほしい等食事が楽しみなものになるよう支援している。	差し入れられた野菜を見せて、利用者の食事の希望を聞き取り食欲を引き出す工夫をしたり、家庭菜園の旬の食材を利用しながら職員と一緒に配膳、下膳を行い、食への興味を持って頂くように努めている。食事は職員も一緒に会話を楽しみながらとっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	0	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取が確保できない場合、本人の好きな物で対応している。状態観察を行いながら変化時は協力医療機関へ連絡し主治医の指示を仰いでいる。		
42	0	○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声かけ、介助や見守りを行なっている。毎夕食後、ポリデントにて洗浄を行なっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定期的にトイレ誘導を行う事により、おむつ使用を減らす努力をしている。排泄パターンを把握し、リハビリパンツ使用から布パンツ使用へ変更する等、一人ひとりにあわせた支援を行なっている。	バイタルチェック表を基に時間単位の排泄チェックの記入で、一人ひとりの排泄のパターンの把握を心がけている。羞恥心に配慮し、さりげなく声をかけトイレに誘導したり、不必要なおむつやパットの使用を控えるようにしている。	
44	0	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量に注意している。お茶だけではなく、甘味のある飲み物等で対応することあり。疾患に応じ下剤の使用を行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	個人の状態にあわせ入浴を行なっている。入浴を嫌われる方に対し、声かけを変えてみる等の工夫を行なっている。	2日に1回の入浴の他、体調や希望により入浴やシャワーなどの柔軟な対応を心がけている。入浴を嫌われる方にはできるだけ声かけのタイミングや言葉を工夫したり、ゆず湯を用いたり、気持ちよく入浴を楽しめるよう支援している。	
46	0	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間安眠できるように、日中適度な活動を行うようにしている。就寝前は暖かい飲み物を飲んでいただく等工夫をおこなっている。		
47	0	○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理は入居者様の担当が行なっている。担当外の薬については、薬状書にて確認している。病状変化時は、協力医療機関へ連絡を行い指示を仰いでいる。		
48	0	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花を植え水やりを行う等、楽しみごとが増やせるよう努力している。洗濯物干しや、たたみ等を役割とされ、スタッフは感謝の声かけを行なっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	近隣への散歩や散髪、買い物など入居者様の状態に応じ支援している。外泊希望の入居者様に対しては、御家族の協力をいただいている。	近所の商店への買い物、花見、墓参りなど一人ひとりの希望に沿った外出の機会が多い。庭や畑があり野菜や花を見ながら散策や外気浴ができ、気分転換をしたり五感の刺激を受けている。また、時々車いすの方も車に乗って一緒に出かけ、外出の機会を確保している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	0	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭管理困難である。買い物や散髪に出かけられた際の支払いは職員が支援している。</p>		
51	0	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話の支援は、現在1名のみ。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節の草花や天気の状態がわかるよう、ホール窓際環境整備に努めている。生活の音や香りを感じていただけるよう、カウンターキッチンとしている。</p>	<p>日のあたるあずまやは格好の談話スペースである。玄関やリビングなどの共有空間には季節の花が飾られ、出入りしやすい台所で利用者が安心して活動する姿がうかがえる。また、絵画や着物を飾ることによりなつかしさを感じる空間になっている。</p>	
53	0	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>入居者様の状況を把握し、ソファや窓際のスペースに誘導を行なっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れた寝具や家具を持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるよう配置していただいている。面会の際、居室にてゆっくり過ごしていただけるように、ソファの設置を行なっていると</p>	<p>居室は、家族とも相談し一人ひとりの希望や状況に応じて仏壇、家具、タンス、椅子など馴染みのあるものが持ち込まれ居心地のよい空間となっている。</p>	
55	0	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>「便所」「おふろ」の入口へ目印をつけている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	ホーム入口へ理念を掲げている。特に、家族や友人地域の皆様との交流が気軽にできるよう心がけている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣へ散歩へでかけ、挨拶等を交わしている。5月には、ホームにて作る「ちまき」を近隣の方々へ入居者様と一緒におすそわけにでかけている。		
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	地域の方々の相談の際は、できるだけわかりやすく説明するように努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見を前向きに検討し、後日勉強会等で話し合い改善に向け努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	日頃より、サービス運営等に疑問が生じた際は、市の担当者へ電話にて相談若しくは出向く等して相談を行なっている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアに常に努めている。生命または身体が危険にさらされる可能性が著しく高いことにより、つなぎ着用の方が1名おられる。御家族の同意をいただき、市役所へ報告行なっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待をテーマとした研修は行なっていない。今後、年間研修計画をたて、学ぶ機会をつくりたい。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	昨年、「高齢者の権利擁護」についての外部研修に職員参加。全体会議にて報告あり、制度等について考える機会を設けた。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約の際は、重要事項説明書、介護利用契約書にて説明を行い理解いただいている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>御意見箱を設置しているが、活用がなされていない。家族会や面会時等に意見、要望を聞くようにしている。入居者様の意見、要望に対し、小さなつぶやきも聞きのがさないように努めている。</p>		
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>毎月第4月曜日、職員勉強会にて意見交換の場を設けている。</p>		
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>働きやすい環境作りに施行錯誤であるが、できるだけ、やりがい、向上心を持てる職場になるよう心がけている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修等は情報提供を行い、参加できるよう勤務調整を行うなど機会の確保に努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市内のグループホーム連絡協議会に参加し、他のグループホームとの交流や情報交換を行なっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しい環境になることで不安を抱え入居される方が多い。早く安心した生活ができるように、言葉かけや表情、表現などの工夫を行いながらコミュニケーションをはかるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホーム見学の際、御家族の困り事、不安、要望をお聞きするようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「その時」のニーズに合わせた、他サービスの紹介を行うように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	喜怒哀楽を共にしながら、共同生活を行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と過ごす時間が重要である事を面会時等に伝え、絆がとぎれないように支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族や友人の面会、電話の支援ができるように努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事をする場所、くつろぐ場所等入居者様が支えあえるような環境作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も個別相談があれば随時対応している。入院時はお見舞いでかけ病状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の思いや意向を伝える事が困難な方に対しては、御家族の話聞くなどして本人本位に検討するように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、他サービス関係者から暮らしぶり等を聞き情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状況に合わせた生活リズムを把握し援助している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人は日頃の関わりの中から思いや意見をきくようにしている。重度の方に関しては、家族、職員の意見を充分検討を行い計画を作成している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ごとに、毎日の食事量、水分量、排泄状況、心身状況等を記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力医療機関との連携により、病状悪化がみられても、これまでの生活が安心して続けられるように支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりが地域で安心して楽しく暮らしていけるように、地域の催し等参加する機会が少ない為、再度地域資源の把握に努めていきたい。御家族の協力は随時いただいている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力病院の他、専門病院での医療を受けられるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>末吉訪問看護ステーションの定期訪問時や、状態変化時に相談を行なっている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時は、状態確認の為病院へ出向いている。早期退院にむけ、受け入れ体制の情報提供を行う等の支援を行なっている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>本人や家族の意向を踏まえ医師、訪看と職員が連携をとり、安心して最期が迎えられように取り組んでいる。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時や事故発生時のマニュアルは、職員が目を通せる場所へ設置している。急変時、事故の際は訪問看護ステーションとの連携を行なっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	H23. 3スプリンクラー、自動火災通報装置の設置。取り扱いについて、写真を使い勉強会にて説明行う。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄失敗時の言葉かけを特に配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表現できる方、表現する事が困難な方一人ひとりが伝えようとしている事をくみ取るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	限られた人数での介護。職員都合によるペースになりがちであるが、記録等の簡素化を行う等し入居者様のペース、希望にそって支援するように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	散髪、毛染め、パーマ等、本人の希望にそえるように、近隣の床屋さんへお伝えしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の配膳や後片付け等を手伝いをいただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取が不十分な方に対し、甘い物等で対応を行なっているが、状態に応じて病院より、栄養補助食品を処方していただく事もある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声かけ、介助や見守りを行なっている。毎日夕食後、ポリデントにて洗浄を行なっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	おむつ使用者が半数。他半数は自立であるため、できるかぎり自立が継続できるように、トイレの声かけ等を行うように努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分に注意を行なっている。繊維が多い食材を使った献立をたてるなど工夫を行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	本人の状態に合わせ行なっている。入浴拒否が見られる方に対し、声かけの工夫を行なっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状況を把握し、休息していただいたり、活動を行ったりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理は入居者様の担当が行なっている。担当外の薬については、薬状書にて確認している。病状変化時は、協力医療機関へ連絡を行い指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	「かるた」や「昔話」「紙芝居」等楽しみごとが増えるように努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	暖かい季節になると、ホーム外の「あずまや」にてお茶を飲む等し、季節を感じたりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>数人、お小遣いとしてお預かりしているが、職員による全面介助である。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>本人自ら電話をされる方が一名。御家族へ希望の品物を購入してきてほしいとの連絡をしておられる。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>昔の着物やザルを飾る等工夫を行なっている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>利用者同士の関係を把握し、ソファへの配置を決めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	看取りの際は、御家族が本人様とゆっくりした時間を過ごせるように環境整備を行なっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「おふろ」「便所」の目印をつけ、できるだけ自立した生活ができるように配慮している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない